全国学力テスト　今年度も下位に低迷
保護者・教員・地域の方の本音緊急調査

TOSS北海道
News Letter
２０１３年９月２１日発行
特別版 Special Edition

1　16版　2013年（平成25年）8月28日（水）

全国学力テスト

道内なお平均と隔たり

順位やや改善　中学38位　小学45位

文部科学省は27日、全国の中学3年生と小学6年生を対象に行った全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）の結果を公表した。全国の公立の小学校の児童・生徒を対象にした調査は2009年以来、4年ぶり。「国語A・B」「算数（数学）A・B」の全4科目の平均正答率は中学生が09年比5・4ポイント低い60・9％で、道教委が目指す45位（同46位）。小中とも同位を上げたものの、順位は依然隔たりがある。（結果分析11～13面、関連記事32面）

全国学力テストは2009年に42位となった。小学生も同9・45ポイント下がって58・9％となったが、全国順位は38位（09年は依然隔たりがある。

全国平均以上の学力に道内で科目別の順位が改善したのは、小学生では算数B を除く3科目、中学生も数学Bを除く3科目。小中とも数量的知識の応用力を問われる算数（数学）Bの学力が課題となっている。

全国学力テストは、文部科学省が全国の学力を把握するため、2009年から実施。学年全員の調査は43年ぶりだった。08、09年は抽出調査だったが、民主党政権下の10年、12年は全員調査に戻った。今年は4月24日に道内の小中学校の1764校約9万1千人を含む公立校2969校（同3万3千人）を対象に国語A（基礎的な知識を問う）国語B（活用力を問う）算数A（基礎的な知識）算数B（数学A）応用（数学B）の計4科目。

過去６年間の北海道全国順位

	小学校				中学校			
	国語		算数		国語		算数	
	A	B	A	B	A	B	A	B
2013 年	40	45	43	47	37	37	35	42
2012 年	46	40	46	45	38	30	35	42
2010 年	46	47	46	46	36	43	38	40
2009 年	46	47	47	45	39	43	40	41
2008 年	46	46	46	46	42	43	44	43
2007 年	45	44	46	46	42	39	44	44

※2011 は、東日本大震災の影響で集計なし

全国学力テストとは

■全国学力・学習状況調査（ぜんこくがくりょく・がくしゅうじょうきょうちょうさ）とは、2007 年より日本全国の小中学校の最高学年（小学６年生、中学３年生）全員を対象として行われるテストのことである。

■テストは以下のような形で行われる。
- 算数・数学と国語と理科(2012 年から)の３科目で、それぞれ知識力を問う問題(A)と知識活用力を問う問題(B)の２種類に分かれている。
- 学力を問う問題だけでなく、児童・生徒の学習・生活環境のアンケート調査も行う。（ウィキペディアより）

８月２７日の道教委のコメント

○　平成２５年度全国学力・学習状況調査の本道の状況は、平均正答率が、小・中学校いずれの教科でも、全国平均より低い状況となっており、厳しく受け止めています。
　昨年度と比較すると、小学校では、全ての教科で全国との差が縮まりましたが、算数Ｂは依然として大きな差があります。また、中学校では国語Ａと数学Ａで全国との差が縮まりましたが、全国を上回っていた国語Ｂは、今年度は下回りました。

○　道教委では、これまでも、市町村教育委員会や校長会等とも連携し、子どもたちに基礎学力がしっかりと身に付くよう取り組んできたところであり、特に、昨年３月からは、本道で正答率が低く、「つまずくとそれ以降の学習に影響が大きい指導事項」を「オール北海道で目指す目標」として示しながら、集中的・計画的な取組を推進してきており、こうした市町村教育委員会や学校の取組が一定の成果として現れてきたものと考えています。

○　しかしながら、特に、小学校において、知識・技能を活用する力を把握するＢ問題で、全国との差が大きいこと、無解答率が全国より高い問題があることなどから、基礎学力を実生活の様々な場面で活用できなかったり、問題の趣旨を十分に理解できず解答時間が不足してしまったりしている子どもが多くいることが考えられます。

○　これまでも繰り返し申し上げていますが、道教委は、「平均点そのもの」を追求している訳ではありません。教育の機会均等という義務教育の趣旨を踏まえれば、本来、生まれ育ったところによって学力に大きな差があってはならず、すべての子どもたちに「社会で自立するために最低限必要な学力」を保障しなければなりません。

○　全国学力・学習状況調査の平均正答率が低いということは、子どもたちに「国が身に付けることが望ましいと考えている個別の学習内容」を全国と比べて十分に身に付けさせることができていないという事実であり、子どもたちの自立や地域社会の発展にも関わる問題です。

○　今後は、道民全体で課題や危機意識を共有し、各市町村教育委員会や学校とこれまで以上に連携しながら、本年６月からスタートさせた「ほっかいどう『学力・体力向上運動』」を積極的に推進し、学力向上の取組を一層加速させてまいります。教育関係者や保護者の方々はもとより、広く道民の皆様のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

保護者・地域の方・教員からの声

保護者の感想

▼**もう少し順位を上げたい。**家庭での勉強時間も少なく、やる気もない。どうしたらいいのか…。（女・専業主婦）

▼一学期が終わった時に我が子の算数のノートを見ました。**まだ１冊目**でした。プリント学習をやっているようですがそのプリントもほとんど家庭に持ち帰っていません。普段授業で扱われるべき漢字学習が**１冊まるごと夏休みの宿題**でした。また、教科書の進度が遅れていると思ったら、ある日突然「これは家でやっておくように」と言われました。学校の授業で何をやっているのか心配です。（男・保護者）

▼**他県と比べ、やはり北海道は低いという事を実感**します。勉強は楽しいものだ！と教えたいけれど、**イヤイヤ宿題や家庭学習をしています**。学習方法や内容にバラエティがあると少しはやる気が出て良いのかと思います。イロイロアイディアがあると聞きたいです。特に、応用問題は苦手です。（女・専業主婦）

▼土曜日にまた学校の授業があると良いと思います。家庭学習をしっかり定着させる事が一番良いのでしょうかね…。（女・不明）

▼若干改善されているようには感じます。我が家もですが、**家庭での学習習慣をしっかり身に付けたい**です。（男・道議会議員）

▼もう少し、家庭学習量を全体的に行うようにした方が良いと思いました。何でも今はきそい合うのはタブーになっているところがありますが、私は**きそい合いは必要な事**と思ってますので、家庭学習提出表など教室にグラフを作ってもいいと思ってます。その表を見ての先生の子供達に対してのコメントが重要になると思います。（女・看護師）

▼下位であっても、わずかずつでも順位が上がってきていると見ればよいのでしょうか。**上位都府県との差がどのような教育環境（学校、家庭学習、塾など）のちがいに起因するのか知りたい**です。上位都府県の結果が、子供の学習意欲や我慢、あきらめずやり遂げることを指導し、身に付けさせた結果であるならば、同様の教育環境とその結果である上位を目指すことに賛成しますが、上位を得るのが強制的な勉強漬けの結果であるならば、北海道が同じ方向で上位を目指すべく教育環境を変えていくことは望みません。（男・会社員）

地域の方の感想

▼「インプット-アウトプット-アウトカム」という評価システムにおきかえ、「普段の授業-試験-理解度確認-授業へのフィードバック」までのサイクルをインプットとしてとらえてみれば、アウトプットは全学力テストを含めた、模擬試験や大規模学力テストの結果として考えられます。この部分を高めないとアウトカムである教育の目的（教育基本法第１条）が達成されません。したがって、インプット、アウトプット、アウトカムすべてにおいて客観指標が必要ですが、とりわけ指標をとりやすいインプット―アウトプットの部分においては、きちんと数値分析を行って指標に現実を近づける努力が不可欠です。イソップのキツネみたいに、数値が低いことを「あの学力テストは意味がないんだ」と否定するのではなく、**正面から数値を受け止めて、少しでもそれを向上させる努力が必要**だと思います。アウトプットがきちんと出ないのはインプットに改善の余地があるからです。また、アウトプットがなっていなければ、アウトカムはもちろん期待できません。教育ほど数値化しやすいジャンルはないので、そこから逃げないことが最も重要です。

▼企業経営者です。新規高卒者採用につき、**弊社では、募集対象高校を上位・中堅校に限定するようにしました**。高卒とは名ばかり、簡単な指示すらもまともに通じないケースが多くありました。企業は教育機関ではありません。**必要最低限の知識・学力を身につけさせてから、それから社会に送り出していただきたい**ものです。

▼以前、我が娘を小学・中学に通わせていた保護者です。小学校に娘が通っていた先生方の授業。参観日、私が見ていても楽しいものでした。しかし、今から学力という観点から思うと、変だな、これでは学力は付かないよなと思うことが沢山ありました。例えば、**娘のノートを見ると、何を学習しているのだかわからないようなことばかり**。教科書の問題をきちんと解いているのか疑わざる得ないようなことばかり。**カラーのテストやドリル帳も学級全体で購入するみたいでしたが、ほとんど授業ではせず宿題になったり、夏休みの課題になったりします**。宿題と言えば、授業で教えず、教科書でやり残した問題を家でやってこい、等と娘は言われたこともあるようでした。娘は、授業では習っていないのですから、私が教えると「パパの方がよくわかる」と喜んでいました。それっておかしくありませんか。**教師がすべきことを家庭に押し付ける。教師の責任放棄です**。これでは、学力が付くはずはありません。

▼北海道から引越して最初に思ったことは宿題の量が違う！音読・漢字・算数ドリルの３パターンを北海道は一日交代でやってたのに、こちらは毎日全部出る。単純に３倍。いいことだけど、やらせるために親はピリピリ(>_<) 近所の一年生が分数のかけ算やってて驚愕Σ（°д°lll）やってる子とやらない子の差がすごい気がする…。私は北海道の感じが好きだけどなぁ…それじゃあダメなのか(^^;;

▼震災で道東に引っ越して来た家族がすぐにまた引っ越しました。学校に我が子を通わせたら勉強が心配になったからです。放射線以上の問題です。（裏へ）

教 師 の 感 想

▼私の学校では，今回のこの結果について自分たちで診断をして，どう改善していけばいいのかを話し合いました。現６年生はＡ問題はできているけれども，Ｂ問題になるとほとんどできていないという現状です。文章読解の力，説明問題を解く力をつけていくことが課題として挙げられています。朝学習の時間，宿題などで力をつけていくことになりました。授業も子供に力をつけられる取組を行うように指示が出ました。学力テストのためだけではなく，子どもに力をつけていくことが本当に大切だと思いました。今５年生の担任をしています。この１年で，少しでも子供に力をつけられたらと思います。

▼釧路市内小学校です。育児放棄、家庭崩壊への対応、生徒指導、同好会など、学習指導以外に時間を取られ、疲弊している人が多いです。**市では、家庭の教材費負担を減らすという通り決めがあったので（今も存在するのか）、効果的、効率的な教材を買えず**、クラス 30 人以上分を複数教材、私費でそろえました。隣のクラスとそろえるという圧力もかかります。新しく来た人に大変なところを持たせる学校もあります。総じて、同業者には**時間を守る、効率的に事をなす、費用対時間の効果に関心が薄い人が多い**と感じます。

▼新しい学級を持つと必ず行なうことが２つあります。前学年までの漢字の到達チェック，前学年までの計算到達チェックです。私のこれまでの経験上，漢字がひどいです。特に漢字の「書き」が壊滅的です。半分もとれません。「いままでどうやって漢字の勉強をしてきたの？」と尋ねると「時々まとめて練習した」「家庭学習で練習した」と返ってくることが多いです。**毎日ある国語の授業の中で，漢字の継続的な指導が為されていない**のです。子どもたちは「練習の仕方」も教えられていません。ひたすら漢字練習ノートに漢字を書き写す方法しか知らないのです。現場ではこうした指導を「体力勝負」と呼びます。これで力がつくのなら，みんな漢字が書けます。実際はそれと全く逆です。漢字嫌いの子を拡大させることにしかなりません。教育には時代の変化に対応しなければならない部分と，時代が変わろうとも大事にしなければならない事があります。不易と流行。漢字の指導は明らかに後者です。しかし，何十万人もの先輩教師たちが実践を通して磨いてきた優れた指導法が受け継がれていません。世の中の多くの方は，「教師は大学でこうした事を教えられている」と思っている事でしょう。しかし，実際はその逆です。**具体的な指導方法などは全くといってよいほど教えられていません**。自分が子どものころに教わった方法をそのまま現場で再生している現状があります（優れた指導法ばかりであれば大歓迎ですが）現場でも日々研修を行なっていますが，こうした具体的な指導の仕方は取り上げられる事が少ないのが現状です。こうした負の連鎖を断ち切る必要があります。大学での実践的な内容の指導。学校では子どもたちにしっかり力をつける「具体的な指導法の工夫」の研究と研修が必要です。道教委も具体的な事例を挙げた指導の改善に向け，取り組みを本格化しています。**学力テストの結果は，単にテストの結果だけでなく，教員養成，現場，道教委，そして家庭教育の総合力の現状を表している**と感じています。どの子もできるようになる，どの先生も指導出来るようになる。ここを目指して微力ながら取り組んでいきたいと思っております。

▼現場では温度差を感じます。危機感を持ち、学力向上の手立てをとっていこうとする教師と、「こんな数値で本当の学力はわからない」という教師、そもそも全国学力学習状況調査の問題をほとんど見たことない教師すら存在します。教師の思想信条の自由は必要ですが、**今回の順位や結果に危機感を持ち、北海道教育員会の打ち出している方針に向けてある程度同じ方向を見ていくべき**だと思います。そうでないと北海道の学力はずっと底這いです。

▼北海道の学校教育の欠点を洗い出して，改善する必要性があると思います。例えば，**行事が多く授業がつぶされる**。**教科の時間に学芸会や運動会の練習に使っている実態**。教師が教えない，**子供に学力がつかない問題解決学習をベースとした研修**などが考えられます。

▼もともと低いといわれていること、全国平均には近づいていることなどから、そう悪いとはいえないと考える。しかし、それに甘んじてはいけない。学力が低いというのは事実である。教師は子どもの学力をあげるというよりも、**学力をあげるための教師力をもっとつけるべき**である。ただし、公の研修や教員免許更新講習の内容では、教師力をあげることは難しい。塾や民間の教育団体などから教え方をたくさん学ぶべきである。教師は保護者に雇われているという意識をもって、研鑽により一層務めなければならないと考える。

▼「北海道の学力は低い」、「北海道は、いつも下から〇番目」などという報道がされる度に、北海道の子どもたちのセルフエスティームが下がると思います。自分たちの学力が低いと聞かされて、うれしい人はいません。北海道の学力の底上げが必要だと思います。**教師としては、授業の改善が必要**だと思います．**算数では教科書をしっかりと教える、国語では漢字の指導も授業中にしっかりと行う**、などなど。基礎学力を定着させる授業が必要です。そのために教師は研修に力を入れていくことも大切です。

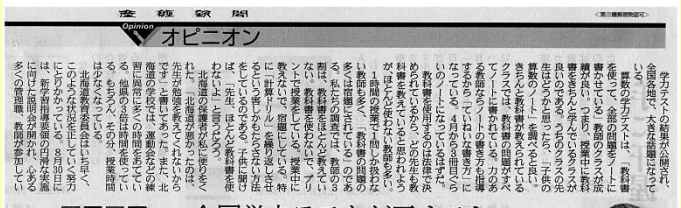
▼学力向上など必要ないという声があります。しかし、本当に学力は必要ないのでしょうか。本当の学力はテストでは表せないという声があります。では、どうやって現状を知り対策を練るのでしょうか。学力テスト下位について嘆く声があります。でも、その具体策が見つけられず困惑している声を多く聞きます。どうやって学力を向上させるのか、それを真剣に具体的に考える時期に来ていると思います。今までの教え方ではだめなのです。**これまでの考え方では効果がない**のです。抜本的に変えていかなければならないのです。私は、そう考えます。

▼過疎で小規模な学校も数多くあるので、そのような学校での学力向上は正直難しいとは思う。しかしながら、都市部でも**真剣に学力向上を考えていない教員や学校は多い**。「点数だけが全てじゃない」「問題が解けなくても、やり方を理解することが大事」などと言っているのは、自分の指導力のなさを転嫁している無責任な教師の言であると考える。**今の若い教師には、勉強熱心な人が多い**。逆にベテランと言われる年代層なのに、学級が崩壊しかかっているのに「もっとひどいクラスがある」と平然としている者もいる。このような教師には早く退職してもらい、若い人が増えて欲しいと願う。

引き続き、北海道の全国学力調査結果についての感想を募集します！！
http://www.d2.dion.ne.jp/~meitoku/gakuryoku.html
のフォームより感想等をお寄せください。

「産経新聞・解答乱麻」(2013.9.14)

ＴＯＳＳ代表・向山洋一


産経新聞
オピニオン
■解答乱麻■ 全国学力テストが示すこと
TOSS代表 向山洋一

学力テストの結果が公開され、全国各地で、大きな話題になっている。

算数の学力テストは、**「教科書を使って、全部の問題をノートに書かせている」教師のクラスが成績が良い。**つまり、授業中に教科書をきちんと学んでいるクラスが良いのである。うちのクラスの先生はどうかと思ったら、「子供の算数のノート」を調べると良い。**きちんと教科書が教えられているクラスでは、教科書の問題がすべてノートに書かれている。**力のある教師ならノートの書き方も指導するから「ていねいな書き方」になっている。４月から３冊目ぐらいのノートになっているはずだ。

教科書を使用するのは法律で決められているから、どの先生も教科書を教えていると思われようが、ほとんど使わない教師も多い。

１時間の授業で１問しか扱わない教師も多く、「教科書の問題の多くは宿題にされている」のである。私たちの調査では、教師の３割は、教科書をほとんど教えていない。教科書を使わないで、プリントで授業をしている。授業中に教えないで、宿題にしている。特に「計算ドリル」を繰り返しさせるという害しかもたらさない方法をしているのである。子供に聞けば、「先生、ほとんど教科書を使わないよ」と言うだろう。

北海道の保護者が私に便りをくれた。**「北海道が悪かったのは、先生が勉強を教えてくれないからです」**と書いてあった。また、**北海道の学校では、運動会などの練習に異常に多くの時間をあてている。他県の３倍は時間を使っている。**もちろん、その分、授業時間は少なくなっている。

北海道教育委員会はいち早く、このような状況を正していく努力にとりかかっている。８月３０日には、新学習指導要領の円滑な実施に向けた説明会が開かれ、心ある多くの管理職、教師が参加している。その中で**講師の大学教授は「教科書をちゃんと使いましょう」と強調し、教科書の構造、意図を解説している。**

（後略）

学力テスト下位低迷の原因と学力向上のポイントを徹底分析！

学力保証 緊急 公開勉強会 in 北海道

TOSS 北海道では、全ての子に「学力」を保証する教育を実現するための勉強会を開催します！

テーマ　全国学力・学習状況調査の結果から北海道の教育を見直す！
～全ての子に「学力」を保証する教育を実現するための第一歩！

日時：平成２５年１１月１０日（日）
　　９：３０～１２：３０（予定）
会場：千歳アルカディア・プラザ
講師：千葉康弘氏、間嶋祐樹氏　ほか
対象：北海道の教育に関心がある全ての方

低迷する北海道の全国学力調査結果とその背景
秋田県はなぜ学力が高いのか？ＴＯＳＳ秋田代表が語る秋田の教育！
「学力を保証する教育」を実現するための授業改善
プロが教える点数が急激にアップする家庭学習法
「学力を保証する教育」を実現するための学校づくり
（予定）

※お申込み・お問い合わせは、
事務局・田上大輔までメールでお願いします。
meitoku@d2.dion.ne.jp
もしくは、右のＱＲコードから

ＴＯＳＳ北海道 News Letter　２０１３年９月２１日発行
特別版 Special Edition

TOSS 北海道 News Letter に関してのお問い合わせは、作成者・田上までお願いします。
meitoku@d2.dion.ne.jp